

静岡市剣道連盟 広報だより

第6号

発行：静岡市剣道連盟
事務局：静岡市駿河区富士見台3-7-4
☎054-256-4433

心に響いた

「節穴の教え」

静岡市剣道連盟

理事 前芝 忠俊



私の剣道稽古は20年以上継続している養浩館での早朝稽古が主体です。早朝稽古に参加する

ようになった最初の頃、当時お元気だった羽賀先生や井上先生には毎日のように稽古をお願いしていました。そうして何年かした時、早朝稽古の後、井上先生から「お前の稽古は節穴から中を覗いているようだ」との指導を頂戴したのです。その時私は、自分の状態をあまりにも的確に表現され、指摘された為、一瞬言葉が失ってしまいました。そして、目の前の大きな壁が開かれた気がしました。私には「勝つことが至上命令」の警察剣道の経験があり、長い選手生活の癖は簡単にはいきません。井上先生は私が必死に掛かった後、あまりにも当てることに拘わる私の稽古を見ておっしゃったと思います。そ

の後の私の剣道は自分で言うのも変ですが、こだわりの殻から抜け出たような変貌があったのです。早朝稽古に参加する剣友からは「昨日と全く違う、何かあったのか」と言われた程です。滝川会長は、会長就任記念手拭いに「啐啄機」と揮毫されました。まさに私が経験した「節穴の教え」は狭義の「啐啄同時」と思えます。

静岡市剣道連盟では、養浩館を借りし、月・木（少年一般）金・土（一般）の稽古会、さらに葵区、駿河区の5体育館で「剣道教室」を実施しています。滝川会長は「剣道は指導する者も、指導される者も稽古が主体」と常におっしゃっています。師弟共に真剣に稽古することによって、はじめて「相手が今どんな状態なのか」を把握することができ、そして「機を逃さない適切な指導」ができるのです。

剣道を愛好する皆様、特に若い人達の、稽古会への積極的な参加を切にお願いします。

千原理事長が前号で述べたように、剣道の素晴らしさを身をもって体験し、「交剣知愛」の輪を広げていくことではありませんか。

静岡市の杖道の現状

市中央体育館杖道教室指導員

興津 靖彦



昭和四十三年に全剣連で杖道の制定形が制定され、昭和四十八年頃より、静岡市でも福地氏を中心有志が集まって杖道の稽古が行われるようになってきました。現在は、各道場でも稽古が行われていますが、古流が中心となりやすく、全剣連の制定形は市の中央体育館・長田体育館・北部体育館の杖道教室や、市剣連主催の杖道講習会（年間一回）・養浩館の市の自主練習の曜日の日を中心となっています。

各体育館の杖道教室は、当然ですが初心者の方が大部分です。しかも、中高年の方々（婦人も含む）がかなり多いのが現状です。その人達に、教室に入会した動機を尋ねると、今更にあまり運動をしたことが無く、杖道は「健康に良さそうだから」と答える人がかなりの割合を占めます。確かに杖を右からも、左からも振るし、杖を両手いっぱい握ったとき、杖を両手いいに握ったとき、胸を広げるし、腰を左右両方に捻るし、脳に良いといわれる手の指も良く使うし、踏ん張るときは足の指も使わなくてはなりません。そういう意味で、普段使ったことの無い体の筋肉は鍛えられ健康に良いというのは確かだと言えます。そのような人達が毎週の教室で杖の振り方を覚え、全剣連の制定形を少しずつ学んでいくのです。その中で難しいのは、まず杖道の基本の「やや半身の構

え」です。頭では直ぐ分かってくれます。しかし、現代の生活では、歩く時は腰を正面に押し出し、足と手は逆の動きになります。なかなか江戸時代の人のような「なんば歩き」のような右手と右足が一緒に前に進み、腰が回るといやり方は難しいようです。すぐ腰が正面を向いてしまします。次に杖を滑らして打つ「滑らし打ち」も難しいようです。打ったとき手の幅が一定になるにはかなりの時間がかかります。そういう基本的な動作を稽古しながらだんだんといくつかの全剣連の形を覚えていきますが、まだレクリエーションというか棒を使った体操の段階です。この段階でやめる人が多いのは残念です。この後もやめずに続けていくと、間合いが分かってくる、体捌きが上手になる、太刀を見切れるようになるなどのことが出来るようになります。やっとな杖も武道になってきます。

同じ形稽古でも形だけなぞっている間は、棒を使った体操のようなもので武道とは言えません。太刀がしっかり切って、それを杖がさばき太刀を押さえていく。そのような形になると武道と言えらると思います。そのようになるにはだいぶ時間がかかります。

杖道の形の最大の特徴はほとんどの形が守りから入り、自分から攻撃するということ形はほとんどありません。杖道が「人を殺さず、傷つけることなく、しかも己の身を全うする」武道であることを目的として標榜しています。現代人にぴったりの武道だと思っています。一人でも多くの人々が武道としての杖道の魅力に触れるよう願ってやみません。

年度もさまざまな行事が開催されました)

中体連だより

「東海大会を終えて」

服織中学校 森 麻衣子

県制覇。それが私たちの目標でした。3月に行われた新人戦の県大会決勝まで勝ち進みましたが、大差での敗退。その日から、より一層県制覇の目標を強く意識し練習に取り組みました。5月には県の代表として石川県大会に出場し、全国の強豪の技術の高さに驚くと同時に、このような全国のチームと大舞台で戦いたいと思うようになりました。

夏の中体連に向けて練習はさらにきつくなり、くじけそうになるときもありました。その度に、円陣を組み、みんなで目標を確認し、苦しいときほど声を掛け合い励まし合っていました。

中体連・県大会。「絶対に負けられない」とその意識からか、予選から堅くなり、自分たちの「攻めの剣道」ができず、準決勝で負け、県制覇の夢は散ってしまいました。私は悔しさと悔みで涙が止まりませんでした。泣いても笑っても東海大会が私たちチームの最後の大会。「悔いの残らないよう、自分たちがやってきた攻めの剣道をしよう。」そうみんなが誓い合い、大会に臨みました。大会では一人一人が役割を意識し、攻めの剣道に徹することができました。私たちは接戦を勝ち進み、三位に入賞することができました。仲間と喜びを分かち合うと同時に、「努力は裏切らない。」ことを実感した瞬間でもありました。

私たち三年生は、全員が中学から剣道始めた初心者でしたが、ここまでやってこれたのも温かく見守って応援してくださいました保護者、熱心に指導してくださいました原田先生、横山先生、伊久美先生、委員会会長を始め、各道場の先生方、苦業を共にし、必死に応援してくれた部員のみんなの支えがあったからだと思います。本当に感謝しています。苦しくて辛かったことが多かったです。三年間。しかし、仲間の温かさ、努力の大切さを知り、大変充実した

本年度 大会結果

★第5回 鈴与杯少年剣道大会 (5月5日・静岡市営清水総合運動場体育館)

- 小学生
 - ①新運館
 - ②大剣会
 - ③武修館
 - ③浜田剣教
- 中学生〈男子〉
 - ①安東中
 - ②翔洋中
 - ③服織中
 - ③興津剣友
- 中学生〈女子〉
 - ①服織中
 - ②豊田中
 - ③長田南中
 - ③東中

★第42回 県下居合道段別選手権大会 (7月19日・養浩館)

- | | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 段外の部 | 初段の部 | 二段の部 |
| ①勝瀬 心
②宗村 恵吾
③辻 洋樹
③菊地 一也 | ①勝瀬 大智
②石川 達一
③山崎 正蔵
③黒田 裕行 | ①平松 治則
②宮澤 博行
③宗村 正人
③宗像 正人 |
| 三段の部 | 四段の部 | 五段の部 |
| ①構 正行
②中村 弥弘
③山本 亮
③日野 四朗 | ①山本智友理
②大田 稔
③北島 健太
③松田 正 | ①松田 武人
②池田 育生
③久永 博之
③深澤 博之 |
| 六段の部 | 七段の部 (70歳以下) 優秀演武者 | 七段の部 (71歳以上) 優秀演武者 |
| ①山崎 卓司
②佐野 文博
③伏見 光治 | ①青木 秀澄
②勝瀬 文孝
③土井 保 | ①瀧口 利子
②原田 英夫
③川福 廣 |

★第4回 万灯みたま祭奉納少年剣道大会 (7月31日・養浩館)

- 5人勝抜き者
 - ・一年 竹村亮紘(静岡武修館)
 - ・二年 長倉裕真(大剣会) 赤堀凱都(篤誠館) 藤牧郁也(高部剣道スポ少)
 - ・三年 漆畑まこ(新運館) 岡村亮輔(静岡武修館) 山崎 陸(三保剣道ク)
 - ・四年 岩崎 了(大浜剣友会) 山本章太郎(大浜剣友会) 藤村直柔(浜田剣教)
 - ・五年 大竹海璃(高部剣道スポ少) 富沢深吾(蒲原剣道少年団)
 - ・六年 漆畑成弥(新運館) 佐々木 優(静岡武修館) 望月大湖(清武館) 磯辺 立(新運館) 木下翔平(新運館) 杉山準斗(興津剣友会) 森 陽亮(静岡武修館)
 - ・佐藤寛太(大剣会) 岡村暢之(静岡武修館) 佐藤拓海(新運館) 宮城島憲人(三保剣道ク) 真田大輝(美和剣正会) 山田奈々絵(大剣会) 森川佳祐(SBS 練心館) 佐野紘平(東部体育館)

★第48回 近県青少年剣道大会 (8月15日・北部体育館)

- 青少年
 - ①刈北剣友会(愛知県刈谷市)
 - ②誠学館スポーツ少年団(富士市)
 - ③静岡市葵区 静岡市葵区
 - ③青島剣道スポーツ少年団(藤枝市)
- 小学生
 - ①尚道館(磐田市)
 - ②誠道会北部道場(浜松市中区)
 - ③浜北剣道スポーツ少年団(浜松市東区)
 - ③砥鹿神社剣道教室(愛知県豊川市)

★県杖道大会 (9月19日・養浩館)

- 段外の部
 - ①深沢博之
 - ②宗像正人
 - ③石川達一
- 初段の部
 - ①前島由明
 - ②池田育生
 - ③米津美伸
- 二段の部
 - ①辻 洋樹
 - ②京極将矢
 - ③土屋 剛
- 三段の部
 - ①山本 亮
 - ②田中将士
 - ③高安伸明
- 四・五段の部
 - ①堀 英夫
 - ②青木秀澄
 - ③田村聖一

★第34回 葵杯中学生剣道大会 (9月20日・北部体育館)

- 男子
 - ①浜松中中部
 - ②細江中
 - ③西益津中
- 女子
 - ①浜松中中部
 - ②高台中
 - ③菊川西中

高体連だより

県立静岡西高等学校 剣道部紹介

三十三期部長 杉山 亮次

静岡西高校剣道部は、創部三十四年になります。まだまだ若い剣道部です。現在、部員は男子十四名・女子四名の十八名です。太田統之先生(三十三年目)と竹下晋先生(三年目)お二人の顧問の先生方に指導を受けています。以前には、静岡市剣道連盟副会長の佐藤武彦先生や藤枝市剣道連盟副会長の福嶋克尚先生なども顧問をなさっていました。休日には、三期生の渡辺泰之先輩を始め、多くの諸先輩方が稽古をつけて下さいます。

金曜日の夜には、道場でOBの方が始められた「武友会」の稽古会に参加させてもらっています。小学生・中学生から一般の方まで、毎回二十名程度の稽古会です。多い時には三十名位になることもあります。(参加は自由参加)ここでの稽古は、部活動と一味違ったものがあります。

部旗には、他校と異なり「礎」(いしずえ)の一字が書いてあります。これは、創部当時の剣道部員が自分たちで考えて決めたそうです。大きな城も、たった一つの礎となる石がしっかりと立っていないければ良い城を作ることができない。人の生きる道も同じであり、この剣道場で人生の礎となるものを作り上げたいという心構えを表しているそうです。これは、一期生の太田先生から伺いました。

高校生の大会は、大きく二つあります。全国高校総体と全国高校選抜大会です。一つでも試合に勝ち、この大会に近づくと部員一同がんばっています。春は福井県遠征・滋賀県遠征、夏は校内合宿・山梨県遠征・岐阜県遠征など、中学時代とは比べものにならない

平成22年度 剣道・杖道・居合道 (本年度)

ます。本当に感謝しています。苦しくて辛かったことの方が多かった三年間。しかし、仲間の温かさ、努力の大切さを知り、大変充実した三年間でした。最後に私たちが果たせなかった県制覇。この夢を後輩達に託したいと思います。



◆第8回静岡市民中学校新人団体戦 結果報告 (11月3日・静岡市中央体育館)

・団体

▼男子

- ①安東中
- ②服織中
- ③長田西中
- ③籠上中

▼女子

- ①服織中
- ②清水七中
- ③大里中
- ③豊田中

中学生 (男子)

- ①浜松中部中
- ②細江中
- ③西益津中
- ③牧之原中

中学生 (女子)

- ①浜松中部中
- ②高台中
- ③菊川西中
- ③沼津門池中

★第8回静岡市民剣道大会 (10月17日・北部体育館)



▼小学四年

- ①山本章太郎 (大浜剣友会)
- ②佐原 颯真 (東部体剣教)
- ③岩崎 了 (大浜剣友会)
- ③村松 俊典 (興津剣友会)



▼小学五年

- ①佐々木 優 (武修館)
- ②竹村 悠太 (武修館)
- ③森 陽亮 (武修館)
- ③前田紘一郎 (武修館)



▼小学六年

- ①佐原 巧真 (東部剣教)
- ②岡村 暢之 (武修館)
- ③山田奈々絵 (大剣会)
- ③佐藤 寛太 (大剣会)



▼中学男子一年

- ①正岡 礼 (翔洋中)
- ②伊石 扇 (長田西中)
- ③須田 裕斗 (清水七中)
- ③岡村 海渡 (清水七中)
- ③古谷 賢生 (東海翔洋中)



▼中学男子二年

- ①櫻庭 弘貴 (安東中)
- ②横山 拓紀 (東中)
- ③梅田 直希 (東中)
- ③古谷 賢生 (東海翔洋中)



▼中学男子三年

- ①上田 将大 (安東中)
- ②一本 崇史 (観山中)
- ③飯田 大介 (長田南中)
- ③大原 健将 (豊田中)



▼中学女子一年

- ①石垣あゆみ (附属静岡中)
- ②富永 遥香 (蒲原中)
- ③杉浦 咲子 (豊田中)
- ③村越 亮里 (服織中)



▼中学女子二年

- ①杉元 愛花 (服織中)
- ②青島このみ (豊田中)
- ③佐塚 茜 (清水六中)
- ③平林 宥奈 (長田南中)



▼中学女子三年

- ①森 麻衣子 (服織中)
- ②吉岡 彩 (新運館)
- ③内野 真理 (服織中)
- ③浜野 瑠衣 (新運館)



▼高校男子

- ①箕輪 拓真 (翔洋高)
- ②友碓 将康 (橋高)
- ③齊藤 大輝 (翔洋高)
- ③田島 開斗 (翔洋高)



▼高校女子

- ①井上真理菜 (橋高)
- ②河村 沙織 (静岡市立)
- ③柴戸 見月 (静岡高)
- ③岡田あずさ (静岡市立)



▼大学・一般男子

- ①鶴田 秀介 (静大)
- ②森川 和晃 (翔洋中)
- ③原川 侑己 (静大)
- ③内山 敬太 (常葉大)



▼大学・一般女子

- ①戸崎 紗絵 (静大)
- ②横田 愛子 (県立大)
- ③戸塚 綾乃 (県立大)
- ③村田 友里 (静大)



す。春は福井県遠征・滋賀県遠征、夏は校内合宿・山梨県遠征・岐阜県遠征など、中学時代とは比べものにならないくらい充実した経験をさせてもらっています。遠征には先輩方や保護者までくることがあります。(親と顧問の先生方に感謝!)こだけの話、福井の温泉と料理は最高です。他県の剣道部員とも顔なじみになり、普通の学校生活では味わえない様な経験を得ることが多いです。

夏の校内合宿は二回ありますが、二回目の夜は、顧問・部員・先輩・コーチ・保護者など関係者が一同に会って食事が行われます。遠征話や合宿の話、先輩方の昔話などで盛り上がりま

す。

剣道部での生活で、少しずつ自身身の「礎」となる何かが作られていくのを感じられます。部員が十八人いるわけですから十八色の「礎」が剣道部での生活からできていくと思います。

これを見た中学生のみなさん。是非、静岡西高校剣道部でいっしょに自分作りをしませんか。待っています。

特 集 記 事

少年指導普及委員会の活動について



委員長	田中 久夫		
副委員長	諸星 幸夫		
委員	佐藤 春光	石川 廣美	
	祿次金 守	熊谷 一郎	
	土屋 昌代	杉山 富夫	
	松下 貴浩	牧野 路子	

広報委員会より活動の様子を寄稿するよう依頼がありましたので以下お知らせ致します。
主な活動を挙げてみると

1 日本剣道形の講習会

主に中学生を対象として年3回、静岡県剣道連盟主催の昇段審査会(初段、二段)の前に「養浩館」にて礼法、作法、刀法を重点に指導しています。毎回70人前後の受講者があります。

2 級受審者講習会

今年度(平成22年4月)より、3級から受審となり、小学4年生から中学生まで約150名の受講者を得て、審査会前に養浩館にて実施しています。「木刀による基本稽古法」を重点に指導しています。

3 審判講習会

主に中学生を対象に9月に実施しています。有効打突の見極めや、審判法などを教え、正しい審判が出来るよう指導しています。

4 合 宿

小学生を対象に11月に「焼津青少年自然の家」にて実施しています。剣道に興味を持たせ、技術を高めるとともに多くの友達と交流する場となるよう指導しています。

5 稽古会

養浩館稽古会 毎週月、木、金、土曜日の午後7時30分から1時間養浩館にて実施しています。月、木曜日は小学生、中学生の参加を認め、長谷川先生が中心となって基本技に重点をおいて指導しています。

清見瀉稽古会 毎月1回 土曜日の午前9時30分から午前11時30分まで小田副会長、諸星副委員長、清水区の先生方が中心となって小学生、中学生を対象に清水区清見瀉体育館にて実施しています。

おわりに

少年指導普及委員会は、10名の委員が協力して次代を担う青少年に日本の伝統文化である剣道を正しく指導してまいります。静岡市剣道連盟の役員、会員の皆様の更なる御協力をお願いします。

— 編 集 後 記 —

皆様のご協力により、第6号が発行できました。ご寄稿頂きました皆様方に於かれましては、お忙しいなか、誠にありがとうございました。

さて、今号は、レイアウトを変更しての第二弾となります。今後もさらによいものを創っていきたくと考えておりますので、皆様の忌憚のないご意見を頂けたらと思います。

広報委員長	鈴木 靖	広報副委員長	高橋長吉
広報委員	小林光男	広報委員	渡辺重和
広報委員	葛西英男		

平成22年度 全剣連少年剣道教育奨励賞を受賞された各道場

「少年剣道教育奨励賞」を受賞して

富 剣 会 西ヶ谷 正 則

この度、静岡市剣道連盟から推薦していただき、全剣連少年剣道教育奨励賞を受賞いたしました。今までご指導いただいた諸先生、先輩方のおかげと心より感謝申し上げます。

富剣会は静岡市立富士見小学校の体育館を稽古場としてお借りし、37年前に発足いたしました。当時は会員が20名程度で下田先生を始め3名の先生方にご指導いただいております。その後、故中村先生、現在もご指導いただいている村谷先生のおかげをもちまして現在に至っております。

私も、初年度(当時小学4年生)に兄と共に入会し剣道を始めました。その後、中学・高校・大学と続け、社会人になってからは一時離れておりましたが、静岡に戻ってから再開し、村谷先生、長島先生、父、兄と共に子供達の指導に当たらせていただいております。

現在の活動は週2回(火・金)の夜6時30分から8時過ぎまで富士見小学校の体育館で小学生を主体に稽古をしております。

稽古内容は基本を中心にし、足捌・手の内についても「どうしてこうなるのか?」と出来るだけ説明しながら、時には遊びの要素も取り入れて行っています。特に刀法などについては模擬刀を用いて説明をし、模擬刀を振らせたり、一刀流の稽古用の籠手を用いて木刀で実際に打たせたりして「真剣」に近づけるようにしています。

昨今は、スポーツ化した武道もありますが、剣道は武道として心身を鍛えると同時に人間として成長するのに最も良い方法の一つであります。子供達と共に稽古し学び、剣道の大切さを伝えていきたいと思っております。



静 岡 武 修 館



代表	疋田朝子	静岡市葵区辰起町8-17
練習日	毎週木・土曜日	電話(054)271-1357
	18:30~21:30	